



まちづくり・コミュニティ

町会・自治会

防犯・防災・みまもり

こども

教育

シニアライフ

健康

スポーツ

芸術・文化・趣味

環境

ふくしとサポート

NPO・ボランティア

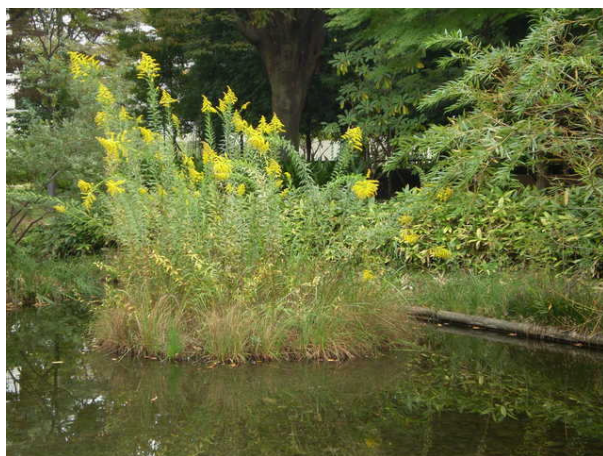
国際交流

男女共同参画

農業・商工業

ホーム > 市民レポーター > ひばりが丘団地「水辺のビオトープ」Part 4

ひばりが丘団地「水辺のビオトープ」Part 4



『深まり行く秋』

春から夏にかけてカルガモが卵を温めた中州は「セイタカアワダチソウ」が占領しています。

「ひばりが丘団地緑のワーク」のみなさんがビオトープで栽培した稲の脱穀、もみすりが10月12日に行われました。鳩に試食されてしまったりとハプニングもありましたが待ちに待った収穫です！

《そら》



千歯（せんば）こぎを使っての脱穀。
千歯こぎは100年も前から使用されていました。



すり鉢を使ってのもみすり。
すりこぎの先をゴムで覆わないと粉になってしまうとか…



もみは少しずつすり鉢に入れてするのがコツだそうです。



←玄米が顔を出してきました！

藁はお正月のしめ縄用に→

↓池の周りに実る果実。



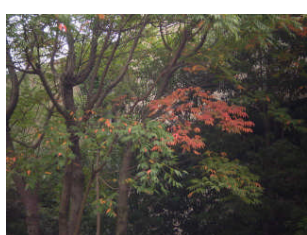
花梨



2週間前（9/27）の取材では青い実だった「ナツメ」が赤く色ずきました。
可愛い～！



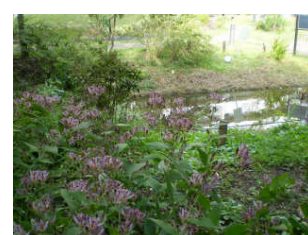
夏みかん



「ハゼノキ」は一部だけが秋色に化粧を始めました。



池に映る秋の空



ホトトギス